

吉田富三博士年譜

一九〇三（明治三六） 福島県石川郡浅川村（現・浅川町）本町に生まれる。

父・喜一郎、母・ナラ。長男。

一九〇九（明治四二） 六歳 浅川尋常小学校入学。

一九一五（大正 四） 一二歳 同小学校卒業。上京し、私立錦城中学校に入学。

一九二〇（大正 九） 一七歳 第一高等学校理科乙類入学。

一九二三（大正一二） 二〇歳 東京帝国大学医学部医学科入学。

一九二七（昭和 二） 二四歳 同大学卒業。同大学医学部 病理学教室副手。

一九二九（昭和 四） 二六歳 父・喜一郎死去。佐々木研究所に入所。

一九三〇（昭和 五） 二七歳 妻・喜美子と結婚。

一九三二（昭和 七） 二九歳 アゾ化合物の経口投与による人工肝がんの生成に成功。

一九三五（昭和一〇） 三二歳 日本癌学会山極賞受賞。服部報公会賞受賞。

一九三六（昭和一一） 三三歳 佐々木研究所退所。ドイツ留学。

一九三六（昭和一一） 三三歳 帝国学士院恩賜賞受賞（第一回）。肝臓癌生成の実験的研究。第二回国際会議出席（ブリュッセル）。

一九三八（昭和一三） 三五歳 長崎医科大学教授（病理学）。

一九四三（昭和一八） 四〇歳 ラット腹水肉腫を発見。「長崎系腹水肉腫」と命名。

一九四四（昭和一九） 四一歳 東北帝国大学教授（病理学）。

一九四八（昭和二三） 四五歳 第七回日本癌学会で「長崎系腹水肉腫」を「吉田肉腫」と改名。

一九四九（昭和二四） 四六歳 第一期日本学術会議会員。

一九五一（昭和二六） 四八歳 第二期日本学術会議会員。第一三回日本医学会総会で「癌の本態観」を講演。吉田肉腫天覧を賜わる。

一九五二（昭和二七） 四九歳 朝日賞受賞（吉田肉腫の研究）。東京大学教授（病理学）。癌化学療法薬ナイトロミンを開発。

